

常任委員会視察報告書

委員会名	教育福祉常任委員会 (前川委員長、藤本副委員長、大石委員、水上委員、中村(て)委員、吉岡委員、志田委員)
視察先 調査事項 など	<u>通級指導教室について、中学校給食について</u> 1月9日(金)10時30分～12時30分 視察先：御成小学校、鎌倉市役所内 説明者：教育文化財部担当職員
視察先 概況	<p>1 御成小学校及び市内小・中学校の通級指導教室の概況</p> <p>(御成小学校について)</p> <p>御成小学校は、鎌倉駅から歩いて5分ほどの旧市街地に在ります。</p> <p>校舎は、外装・内装に木材を使い、木のぬくもりを大切にした教育空間をつくりだしています。また、多様な学習活動に対応できるように、オープンスペースを取り入れるとともに、バリアフリーの設計がなされています。</p> <p>鎌倉市役所に隣接し、御成山を背に緑豊かな自然に恵まれ、落ち着いた環境の中にあります。校地は、鎌倉御用邸跡地で約33,000平方メートルの広さがあり、校庭からは、室町・鎌倉期ばかりではなく古代遺跡も発掘されています。</p> <p>(市立小学校の通級指導教室について)</p> <p>鎌倉市内の小学校通常級に在籍しながら、保護者と一緒に定期的に通級指導教室のある学校に通って指導を受ける「通級制」の教室です。市内小学校の通級指導教室には、ことばの教室、きこえの教室、つどいの教室があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ことばの教室（言語通級指導教室） 「カ行の発音がうまくできない」「発音が不明瞭」といった、構音障害、「ことばの始めがスムーズに言い出せない」といった、吃音や、言語発達の課題に関する指導を行います。 ・ きこえの教室（難聴通級指導教室） 聞き取りの練習など、難聴に伴う課題（聴覚管理、言語発達など）に対し、聞く練習などの指導を行います。 ・ つどいの教室（情緒通級指導教室） 「勝負ごとに負けると気持ちを納められない」「友達とトラブルになりやすい」「集団の活動に参加できない」など、人間関係作りや集団参加に関して、ソーシャルスキルトレーニングを通して社会性を育てます。

(市立中学校の通級指導教室について)

言語やコミュニケーション、人間関係、スケジュール管理等に関して、悩みや不安を感じている子供たちが、それぞれの課題に合った個別の指導を学校で受ける教室です。

・指導の形態

①在籍校での指導

- ・在籍校の指導用教室に担当教員が訪問しての指導（巡回指導）
- ・担当教員は拠点校（大船中学校）から各中学校へ訪問

②指導の方法

- ・1対1を基本とした個別指導 ・必要に応じてグループ指導等も行います。

③指導時間・回数

- ・指導時間は1回1コマ（50分間）を基本とします。
- ・回数は月1回から週1回まで、教育的ニーズに応じて設定します。

④その他

- ・在籍する学級での学習の様子の視察や、在籍校の先生方との情報共有も行います
- ・通級指導教室へ通室している時間については、在籍校に「出席」している扱いとなり、「遅刻」や「早退」にはなりません。

今回の視察では、担当職員の説明を受けながら、小学校の通級指導教室を視察しました。

2 鎌倉市立中学校給食の概況

(鎌倉市立中学校の給食について)

鎌倉市立中学校では、平成29年11月7日から民間調理場で調理した給食をランチボックス等に盛り付けて各校に配送するデリバリー方式で、給食を開始しました。

- ・学校給食法で定める学校給食摂取基準に基づき、主食、おかず（汁物含む）及び牛乳からなる完全給食の献立を、市の栄養士が作成しています。
- ・ごはんと汁物は、蓄熱材を入れた専用の保温コンテナに入れて配送し、副食は食中毒防止の観点から調理後冷ましたものを盛り付けて提供します。
- ・給食に使用する食材については、鎌倉市独自の選定基準を設け、安全で安心な食材の使用に努めています。
- ・ハーベスト株式会社鎌倉工場（笛田1-11-15）から各校の専用トラックで給食を配送しています。

今回の視察では、担当職員の説明を受けながら、中学校給食の試食を実施しました。

<p>前川 綾子 委員長 所 感</p>	<p>1 通級指導教室について</p> <p>御成小学校内にある『ことばの教室』を教育福祉常任委員会全員で視察をさせて頂いた。 ・発音に誤りがある・なめらかに話せない・耳のきこえに不安がある・ことばの発達に不安がある・人とのコミュニケーションがうまくいかないなどの不安がある子ども達が、現在通学している学級に籍を置いたまま、必要な時間を『通級教室』に通う、ということになる。現在、同種の教室は、市内に3つあり、令和8年度4月から、さらに一つ増える予定で、通級する児童数は増加傾向にあり、これまでの在り方に加えて、今後の方向性も気になる場所である。施設見学の予定であったが、きめ細やかな指導がされている、ということを確認した上で、こうした通級教室設置の意義など、委員会から多くの熱心な質問が視察現場で出されたので、近々に『ことばの教室』を含め、言語だけでなく、難聴・情緒への支援をおこなう教室についてなどを、改めて教育指導課から説明を受けることにした。そうしたきっかけを得たことは、委員会としても大変有意義であった、と考えている。</p>
	<p>2 中学校給食について</p> <p>鎌倉市内の公立中学校の給食は、センター給食である。8年前の2017年1月にデリバリー方式（ランチボックス方式）で始まった。その設置には、保護者からの要望を受けて、私も議員としても尽力した一人である。設置には大変時間がかかったことも事実である。</p> <p>昨年、令和7年12月には、市内公立小学校の自校式給食を今泉小学校に試食に伺わせて頂いた。今回は、センターから市役所の委員会室に運んで頂き、委員会で試食をおこなった。学務課のはからいで、センターでの調理の様子をビデオで拝見しながら食することができた。2年前に、私と他2名の当時の委員会メンバー3名で、実際にセンター内での調理の様子を見せて頂いた経験がある。その様子を拝見し、衛生・栄養・産地など食材へのこだわりなどを伺うと、ただただ感謝しかない。安全の面で、弁当は冷たい状態で運ばれてきているが、最近では、温かいものを求める声もあり、2年後には『食缶方式』に変えていく予定もある。</p> <p>いずれにしても、大変美味しく頂いた。</p>

藤本あさこ
副委員長
所 感

1 通級指導教室について

1. 視察の背景と目的

本市の通級指導教室については、児童の居住学区によって受けられる支援に差が生じている点を、これまで議会において課題として指摘してきた。

教育委員会からは、教室整備等のハード面の困難さが理由として示されてきたことから、その実態を把握するため、現地視察を実施した。

2. 視察内容および現状認識

御成小学校の通級指導教室を視察した。同校は、市内でも比較的整備が進んだ事例であり、設備状況および支援内容について説明を受けた。

支援内容は高度な専門性を伴うもので、通常の学級指導の延長とはいえず、教員が追加研修を経て担っている現状から、現場の負担の大きさがうかがえた。また、後日開催された説明会では、制度の成り立ちやこれまでの成果について説明を受けた一方、現行の仕組みについては見直しの余地があるとの意見交換も行われた。

3. 所見および今後の方向性

通級指導教室における指導は、通常の教員免許に基づく指導の範囲を超えていると感じられる。

他自治体において実施されている、作業療法士等の専門職を活用した支援体制は有効な事例であり、本市においても参考とすべきである。

今後は、支援の地域間格差の是正および教員負担の軽減に向け、通級指導教室の制度設計や支援体制の在り方について、引き続き調査・研究を進めていく必要がある。

2 中学校給食について

1. 試食実施の背景と目的

鎌倉市の中学校給食について、「おかずが冷たい」「満足感が乏しい」といった市民の声がこれまで絶えず寄せられてきた。こうした状況を受け、その実態を自ら確認する必要があると判断し、給食の試食会を実施した。

2. 試食内容および現状認識

試食した給食は、主食・主菜・汁物・箸休め・デザートで構成されていたが、全体として品数が少なく、内容面での貧弱さは否めなかった。

主食の量は多く、一定の満腹感は得られるものの、副菜は量・質ともに簡素であり、「食事」としての充実感には大きな欠けがあったと感じた。成長期の中学生が日常的に口にする給食として、これで十分と言えるのか、強い疑問を抱かざるを得ない。

3. 所見および今後の方向性

中学校給食は、単に空腹を満たすものではなく、心身の成長を支え、食への関心や理解を育てる「食育」の重要な機会である。その観点に立てば、少なくとも一汁三菜を基本とした献立構成を目指すべきである。

現場の栄養士が限られた条件の中で最大限の努力をしていることは十分理解しているが、制度としてその努力に依存し続ける現状には限界がある。給食の質

を本気で改善するのであれば、一食当たりの予算を含め、根本的な見直しが不可欠である。

また、今後は食缶方式への移行が予定されているが、こうした方式は給食の温度や質の面から見て、当初から採用されるべきものであったと考える。選挙を前に突然掲げられた公約としてではなく、なぜ最初から生徒の立場に立った選択ができなかったのか。

これまで冷たい給食を提供されてきた生徒の気持ちを、行政はどこまで真剣に受け止めてきたのかという点について、強い問題意識を持っている。今後は、場当たり的な対応ではなく、子どもを中心に据えた一貫した給食政策が求められる。

大石 香 委 員 所 感	<p>1 通級指導教室について</p> <p>視察をするまで、通級教室にどれだけの設備投資と、教員の専門知識が必要なのか知りませんでした。御成小学校ことばの教室では、防音壁やマジックミラーが設置された個別の指導教室が複数あり、体を動かすためのトランポリンや遊具が用意された部屋もあり驚きました。ただ充実した設備よりも、設備が足りなくてもすべての学校に通級指導教室を設置することに力を注いで欲しいと思う。また作業療法士などの専門家がいて教員をサポートできて、不安や負担の解消につながり、こどもにとっても良いのではないかと感じました。</p>
	<p>2 中学校給食について</p> <p>ランチボックス式の中学校給食は、ごはんや汁物は温かく衛生管理上おかずは冷たかったです。温かい給食を届けるために市長公約では食缶方式の導入を検討するようですが、委託先の難しさや食事時間不足が話題になりました。原材料は地産地消を意識していて、だしは煮干しからとってドレッシングは既製品ではなくセンターの手作りと聞き感動しました。味付けは濃い口ではなくおいしかったです、おかずの量が少し足りないようにも感じました。</p>

<p>水上 武史 委員 所 感</p>	<p>1 通級指導教室について</p> <p>御成小学校にある通級指導教室「ことばの教室」を視察した。</p> <p>「ことばの教室」は、発音や言葉の使い方に対し苦手さのある小学生が、個別の支援・指導を受けながら自信をもって話したり、聞いたりできるようになることを目指している場所である。</p> <p>そのような目的のため、防音や間仕切りなどにより機密性が確保され、児童が落ち着いて話すことができるよう、プライバシーに配慮した空間となっている。ここでの学びや児童の変化は、保護者や学級担任と丁寧に共有され、通常の授業や家庭生活の場面でも活かせるよう連携が図られている。</p> <p>通級を希望・利用する児童は年々増加しているとのことで、ニーズの高まりがうかがえた。今後も、指導体制の充実や通常学級の教員への研修などを通じて、子どもたちがどの教室にいても必要な支援を受けられる仕組みづくりを進めていきたい。</p> <p>一方で、「通級に行くことで友達と離れてしまうのではないか」「ラベリングにならないか」といった懸念はある。あくまでも本人・保護者の理解と合意を前提にした学びであり、そのあり方は、インクルーシブ教育の理念に沿う実践であるよう留意していく必要がある。</p> <p>2 中学校給食について</p> <p>鎌倉市立中学校では、希望者を対象に、予約制のランチボックス型給食を提供している。</p> <p>今回は、調理や盛付け、配送業務を担っているハーベスト株式会社鎌倉工場の調理工程を動画で拝見しながら、教育福祉常任委員会の委員で試食をした。この日の献立は「ゆかりごはん・かじきの竜田揚げ・ゆず香和え・白玉あずき・ひじきのスープ・牛乳」で、できる限り素材や手作りにこだわった内容となっていた。</p> <p>ゆかりごはんといじきのスープは、蓄熱剤入りの保温コンテナで管理されており、温かい状態で提供されていた一方で、おかず類は衛生管理上の観点から冷却した状態で提供されていた。</p> <p>実際に食べてみると、とてもおいしく感じられたが、やはり可能であればおかずも温かい状態で提供できると、さらに満足度が高まると感じた。</p> <p>現在の方式は、安全性と効率性に配慮しつつ丁寧に作られていることは間違いないが、今後、衛生面や配膳時間などの課題を乗り越えながら、小学校と同様の保温食缶方式も含めて検討が進めば、より子どもたちが喜ぶ給食へと発展していくのではないかと感じた。</p>
-----------------------------	---

1 通級指導教室について

通級指導教室を視察し、学習環境や教員の負担感、支援体制の状況について確認いたしました。教室内は整理が行き届いており、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境が整っていました。通級の教員は児童生徒一人ひとりの理解度や特性に応じて丁寧な支援を行っており、個別支援ニーズに応じた柔軟な指導が実践されている様子を確認することができました。

一方で、支援を必要とする児童生徒の増加や課題の複雑化により、教員の負担は年々大きくなっています。個別支援の準備、通常級の先生方や福祉支援者、家庭との連絡調整など多岐にわたる業務が重なり、現場における人的・時間的負担が深刻化している状況がうかがえました。また、より児童たちにあった支援を確立するために自己研鑽をする必要があり、通常級の教員が抱える負担とは違った負担感を抱えていると感じました。

通級指導教室は週に1回程度の通っている児童が多く、児童への支援は家庭がその負担を引き受けざるを得ず、保護者にとっても心理的・時間的な負荷が強い状況でした。家庭への負担増は、子どもの安定した生活環境に影響する場合もあり、支援体制全体の在り方を見直す必要性を強く感じました。

教育だけが課題を抱え込むのではなく、地域の支援者や福祉機関との連携を強化し、学校・家庭・地域・福祉が協働して子どもを支える多層的な支援体制を構築することが不可欠です。情報共有の仕組みを整え、役割分担を明確にすることで、教員や家庭の負担軽減につながり、より継続的で質の高い支援提供が可能になると考えております。

2 中学校給食について

中学校給食を実際に食し、動画から提供までの流れを確認することにより、ランチボックス式による衛生管理、運用上の課題を確認し、食育の向上を目的として実施しました。

まず実際に食し、おいしく食べられる工夫が凝らしてあると感じました。ランチボックス式給食は外部の調理施設で調理された食事を個別容器に盛り付け、学校へ配送する方式です。配送中に菌の繁殖を抑えるために、出来上がったおかずを5度に冷やす必要があるが、冷えても食感が悪くならないよう調理していました。また、アレルギー対応メニューには専用のラベルが付けられ、管理方法が明確になっていました。味や栄養面については、学校給食基準に沿って献立が作成されており、栄養バランスが確保されているとの説明を受けました。実際に確認したメニューも家庭的で食べやすい味付けでした。

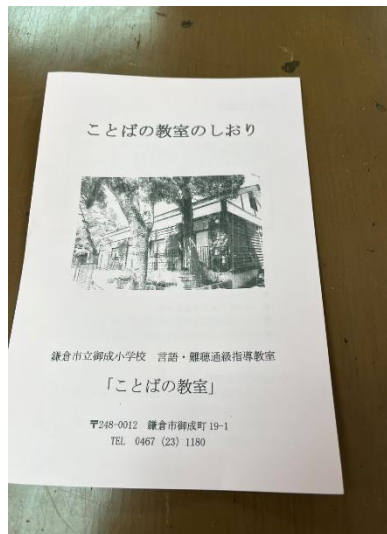
令和4年度に生徒を対象に実施したアンケートでは、給食を残す理由の4位におかずが冷たいからがあげられています。より残食を減らし、食育の向上を目指すのであれば、食缶方式への転換は必要であると感じました。

ランチボックス式給食は、衛生管理や運用体制が整っており、安定した提供が可能な方式であると評価できます。また、作り手の生徒たちがおいしく食べてもらいたいという愛が感じられました。さらに食育の向上、さらなる質の向上に向け、食缶方式等を取り入れ、受け入れ環境の整備が期待されます。

1 御成小学校通級指導教室 ことばの教室

2026年1月9日 教育福祉常任委員会視察 10時30分から

○御成小通級指導教室



小学校に入学する児童について 「発音が不明瞭」「カ行の発音がうまくできない」等の構音障害（初めて知りました）、「言葉の始めがスムーズ言い出せない」吃音や言語の発達の遅れに関して指導しています。耳の聞こえに不安がある児童も対象です。



年々対象児童が増え続けているとのこと。

ことばの教室は御成、富士塚、大船小に設置されており、4月からは植木小学校にできるとのことです。

回数は週一回で約2時間の指導が行われているとのことでした。

通級による指導形態をとっており、通常は現在通学している学校で学習しています。

体を動かすことが大事だとして トランポリンやボール遊びも取り入れているとのことでした。

吉岡 和江
委員
所 感

- 2 中学校給食を試食 議会第1委員会室にて 11時30分～
そのあと市役所に戻り、中学校の弁当給食をいただきました。



本日の給食はゆかりご飯、カジキの竜田揚げ、ゆず香和え、白玉あずきひじきのスープ、牛乳 おいしかったです！

ご飯は温かさが残っていましたが、おかずは冷たい 課題ですね
ハーベスト工場の給食を作る様子のビデオを見ました。

前に笛田1丁目にある工場見学に行きましたが、だしも煮干しから取り、ドレッシングも手作り、材料の手配は鎌倉市の栄養士が行い、衛生管理が行き届いた中で調理されています。

量的には育ち盛りのお子さんには少ないかなと感じました。

今、市長は温かい給食をと食缶給食の導入を考えているようです。

中学校までの学校給食の無償化を考えると解決しなければならない課題がたくさんあると思います。

今は家庭から弁当持参の生徒がいる中で、現在の工場施設では80%の生徒対象の給食が限度で全員が給食を利用できません。食缶の場合、学校での配膳をどうするのか人の配置や設備等の課題があります。

いろいろな課題の解決が必要だと思います。



志田 一宏 委員 所 感	<p>1 通級指導教室について</p> <p>御成小学校の通級指導教室で、実際に児童が指導を受けているところではなく、通級指導教室で指導を行っている教員から内容を伺った。児童一人一人に寄り添った伴走型の指導がなされていると感じた。</p> <p>昨今、通級指導教室への申し込みが増えているとのことである。明確な理由は分からない。とのことだが、幼少期から人とのコミュニケーションが不足しているのではないかと考えた。粗末な子育てや、子育てに理解のない大人の影響で子供がのびのび遊べない昨今。通級指導教室に通わなくて良い環境整備が急務で必要だと感じた。</p>
	<p>2 中学校給食について</p> <p>市立中学校で支給されている給食を試食した。おかずが冷たい。という声を多少聞くが、試食してみて冷たいとは感じなかった。朝早くから、下処理をし、みそ汁は出汁からとる。など、愛情たっぷりの給食である。生徒は、給食を通じて、料理の奥深さを感じてほしい。量は、男子には少ないと感じた。カロリーベースでは基準を満たしているが、これほどまでの給食であれば、夕食まで間食しないようお腹一杯食べさせてあげたい。</p>